

(別紙 1)

【認知症対応型共同生活介護用】

1. 評価結果概要表

作成日 平成19年10月22日

【評価実施概要】

事業所番号	2772402257		
法人名	有限会社 陽春		
事業所名	グループホーム 陽春		
所在地	大阪府枚方市東田宮1丁目16-3 (電話)072-844-7588		
評価機関名	株式会社H.R.コーポレーション		
所在地	兵庫県西宮市甲陽園本庄町6番8-102号		
訪問調査日	19年 9月 11日	評価確定日	平成19年11月19日

【情報提供票より】 (平成19年9月20日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	昭和・平成 16年 4月 1日		
ユニット数	1ユニット	利用定員数計	5人
職員数	9人	常勤 4人, 非常勤 5人, 常勤換算 2.8人	

(2) 建物概要

建物構造	木造・スレート葺 造り
	2階建ての 1~2 階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	42,000 円	その他の経費(月額)	21000 円
敷金	有(円) (無)		
保証金の有無 (入居一時金含む)	(有) (200,000 円) 無	有りの場合 償却の有無	有 / (無)
食材料費	朝食 200 円	昼食 500 円	
	夕食 円	おやつ 100 円	
	または1日当たり 1,400 円		

(4) 利用者の概要 (月 日現在)

利用者人数	5名	男性	2名	女性	3名
要介護1	1	要介護2		2	
要介護3	2	要介護4		0	
要介護5	0	要支援2		0	
年齢	平均 76歳	最低 64歳	最高 83歳		

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	香里ヶ丘有恵会病院
---------	-----------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

民家を改築した1ユニット5名のグループホームで、平坦な住宅地の中、周囲に公園・商店があり、外出に適した立地条件に恵まれている。開設以来職員の退職がなく、馴染みの職員との信頼関係の下、利用者がのびのびとその人らしく過ごされている。家事を分担したり、歌・ビデオ鑑賞・ガーデニングなど、役割や趣味を継続しながら、家庭的な環境の中、利用者と職員が自然な形で協働して生活されている。地域とも連携がとれており、玄関を施錠することなく利用者は近隣に自由に外出している。

【重点項目への取組状況】

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:第三者4) 前回の外部評価結果の改善点、部屋の目印・口腔ケアについては改善計画を立て、改善が図られた。職員研修については、改善計画に取り組みを継続中である。 今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:第三者4) 職員全員で話し合い、1年間のサービス内容を振り返り、自己評価を行った。
重点項目	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:第三者4,5,6) 地域包括センター職員・自治会副会長・民生委員・利用者家族をメンバーとして、2ヶ月に1回運営推進会議が開催されている。会議では、行事の報告・予定説明の他、外部評価の結果公表・検討などを行っている。
重点項目	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:第三者7,8) 家族の面会訪問時に意見・不満・苦情が表明しやすく話しやすい雰囲気作りを工夫している。外部の相談窓口については重要事項説明書に記載し、契約時に説明している。
重点項目	日常生活における地域との連携(関連項目:第三者3) 市主催のグループホーム連絡会に必ず出席し、意見・情報交換をしている。市の介護保険課を頻繁に訪ね、窓口担当者に相談・情報交換を通して連携を深めている。近隣のグループホームと行き来する機会を作り、見学や意見交換を行いサービスの質の向上に取組んでいる。

2. 評価結果（詳細）

外部 評価	自己 評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを 期待したい項 目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	地域密着型の要素である「地域で安心した暮らし」を盛り込んで見直された。「家庭的な環境の下」が消されている。	○	グループホームの理念でもあり、「陽春」の最大の特徴の一つである「家庭的で温かな雰囲気」を見直された理念の中にも残されることが望まれる。
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	職員と共に話し合い理念を見直し改定したため、内容は十分に理解・共有している。玄関に「運営理念」を掲示し、理念の実践に向けて取り組んでいる。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	昨年自治会に加入し、防災訓練など自治会活動の参加に取り組んでいる。小学校の運動会の見学・地域の商店利用・近隣の散歩の際の住民との交流など、地域と連携・交流できるように努めている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び第三者評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	前回の外部評価結果に基づいて改善計画を立て、改善が図られている。今回も、職員全員で話し合い自己評価が行われている。		

外部 評価	自己 評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを 期待したい項 目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	地域包括センター職員・自治会副会長・民生委員・利用者家族をメンバーとして、2ヶ月に1回運営推進会議が開催されている。会議では、行事の報告・予定説明の他、外部評価の結果公表・検討等を行っている。		
6	9	○市町との連携 事業所は、市町担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市主催のグループホーム連絡会に必ず出席し、意見・情報交換をしている。市の介護保険課を頻繁に訪ね、窓口担当者に相談・情報交換を通して連携を深めている。近隣のグループホームと行き来する機会を作り、見学や意見交換を行いサービスの質の向上に取り組んでいる。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	家族の面会訪問時に、日々の暮らしの様子や健康状態などについて報告し、金銭管理についても報告している。必要に応じて電話・文書で連絡する他、2ヶ月に1回運営会議の報告と共に、個別の通信・写真を郵送している。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族の面会訪問時に意見・不満・苦情が表明しやすいような話しやすい雰囲気作りを工夫している。外部の相談窓口については重要事項説明書に記載し、契約時に説明している。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員全員で話し合い作り上げた理念の下、職員が共に理念の実現に向けて信頼関係とチームワークを構築しているため、開設以来職員の交代なく、利用者が馴染みの職員の支援を受けながら安心して暮らせる環境が確保されている。		

外部 評価	自己 評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを 期待したい項 目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	新入職者にはオリエンテーションで管理者がホームの理念などを説明し、業務内容については現場の職員が実地指導している。外部研修に参加できるように、情報提供・シフト調整などで支援しているが、機会はまだまだ多くない。定期的な内部研修は、現在準備中である。	○	認知症の理解・感染症予防・緊急時対応など、必要な研修項目を年間計画の下、定期的・計画的に実施されることが望ましい。また、職員の段階に応じて育成するための計画的な研修の実施も期待される。
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	支援センターが主催するグループホームの連絡会に出席し、情報・意見交換をしている。また、親交のあるグループホーム間で管理者・職員が相互訪問し、見学・情報交換することにより、サービスの質の向上に役立てている。		
安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	サービス開始前に職員が利用者の自宅を訪問し、利用者・家族がホームを訪問しながら、ホームの職員や他の利用者との関係構築し、円滑にサービスを開始できるように配慮されている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○利用者と共に過ごし支えあう関係 職員は、利用者を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、利用者から学んだり、支えあう関係を築いている	利用者と職員が日常的に、家事・外出など一緒に活動する時間を多く持つことにより、利用者が自分の役割や出番を認識し、互いに支えあう関係が築かれている。		

外部 評価	自己 評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを 期待したい項 目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
・その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	サービス開始時の利用者・家族からのアセスメントにより思いや意向を聴取している。また少人数であるため、入所後も利用者一人ひとりと十分にコミュニケーションがとれる環境にあるため、日常の会話の中から思い・意向を汲み取ることができ、職員間の話し合いの中で共有している。		
2. より良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 利用者がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	利用者・家族からのアセスメントを基に、管理者・職員が意見を出し合いながら、介護計画を作成し、利用者・家族にも同意を得ている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じた見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、利用者、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	安定している利用者の定期的な見直しとしては、2ヶ月に1回、夜勤者や早出の職員が出席しやすい朝の時間帯に管理者の他、スタッフも参加してケア会議が行われている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 利用者や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	「在宅にいる妻が入院したときにお見舞いに行きたい」と希望した利用者を職員と一緒に連れて面会に行くなどの支援を行っている。		

外部 評価	自己 評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを 期待したい項 目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. より良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 利用者や家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	事業所の協力医師が本人、家族の希望するかかりつけ医に受診するかは選択できている。月2回は内科医の往診があり、必要に応じて歯科への受診も支援している。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から利用者や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	現在の職員では医療面での体制が不十分であり、重度化した場合の対応が困難であるため、家族と話し合い提携病院や施設への受け入れを依頼している。終末期の対応については、今後職員、家族、主治医との話し合いを重ね方針を検討する。		
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	入職時にホーム長が口頭で利用者への言葉使いや羞恥心への配慮について指導している。職員は、利用者一人一人の性格を捉え、言葉使いや行動を考えて接している。個人情報については、入職時に誓約書を交わし秘密保持に努めている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入所前のアセスメントにより生活歴や趣味などを把握し、ビデオを観たり、ジグソーパズルをするなど、その人なりのペースに合わせた暮らしができるように支援している。		

外部 評価	自己 評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを 期待したい項 目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	調理の下ごしらえや食事の準備などを職員と一緒にいき、手作りの食事を共に楽しみながら、食への関心を保つように支援している。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	特に曜日や回数は決めないで、利用者の希望を聞いて柔軟に対応している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	洗濯物たたみや調理の下ごしらえなど、利用者の日々の言動などから、役割や楽しみごとを見つけ、本人自ら率先して行えるように支援している。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	利用者同士で近くのファーストフード店にコーヒーを飲みに行くなど、希望に応じて外出ができるように取り組んでいる。1日1回は外気に触れるように玄関先にある植木や花に水をやるなど短時間でも戸外に出る機会を作っている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	玄関の鍵はかけないで自由に出入りできるようにしている。職員の見守りなどで安全面については配慮がされている。		

外部 評価	自己 評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを 期待したい項 目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日頃より地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	利用者と職員と一緒に水消火器を実際に使用して訓練を行っている。また、夜間を想定しての避難訓練も2階の利用者を階段を使って非難させるなどより実践的な訓練を行っている。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	ホーム長が栄養価やバランスを考えた献立を作成し、提携病院の栄養士にチェックをしてもらい、カロリーの過不足がないように配慮している。又、食事摂取量や水分量は毎日ケアチェック表に記録し、職員全員が利用者一人一人の状態を把握している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	自分の家にいるようないつも見慣れた物や馴染みのある場所で、落ち着いて安心できる雰囲気のある共有空間となっている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、利用者や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、居心地よく過ごせるような工夫をしている	畳とフローリングのお部屋があり、使い慣れたベットを持ち込んだり、お布団を敷いて寝起きするなど、以前の暮らしをそのまま継続できるような環境を作り、利用者一人一人の希望や生活習慣に応じた居室となっている。		

 は、重点項目。